

本格的な台風シーズン到来

目ごろから十分な対策を

大正十二年九月二日に発生した関東大震災。その悲惨な状況や教訓を後世に伝えるため、毎年九月一日を「防災の日」と定めました。今年は東北地方で二度の地震があり大きな被害が発生。また、台風やその雨雲で大雨が降り、九州地方では七月の集中豪雨で二十数人が亡くなりました。しかし、これから本格的な台風シーズンです。大雨と強風による被害は、毎年のように全国各地で発生しています。風水害に備え、準備することや注意点を紹介します。

問い合わせは生活課 890-6238へ

本市でも発生 大雨による被害

本市は「水と緑と詩のまち」といわれるように、市内を利根川や、これから分かれる広瀬川、桃ノ木川などが流れています。そして河川が都市景観にも大きな影響を与えています。

そのため、古くから水害が多く発生。特に昭和二十二年のカスリン台風では、広い地域で水没しました。

また、このカスリン台風の翌

台風の勢力			
大きさ		強さ	
階級	風速秒速15m以上の半径	階級	最大風速
なし	500 未満	なし	毎秒17m以上 33m未満
大型 (大きい)	500 以上 800 未満	強い	毎秒33m以上 44m未満
超大型 (非常に大きい)	800 以上	非常に強い 猛烈な	毎秒44m以上 54m未満 毎秒54m以上

台風のおおよその勢力を示す目安として、気象庁では、「大きさ」を風速毎秒15m以上の強い風が吹いているか吹く可能性のある「強風域」の半径で、「強さ」を最大風速で区別し、表現しています。

風・大雨・洪水の注意報と警報の基準		
	注意報	警報
風	(強風注意報) 平均風速がおおむね毎秒13mを超え、主として強風による被害が予想される場合	(暴風警報) 平均風速がおおむね毎秒18mを超え、重大な災害が起こる恐れがあると予想される場合
大雨	(大雨注意報) かなりの降雨があつて被害が予想される場合	(大雨警報) 大雨によって重大な災害が起こる恐れがあると予想される場合
洪水	(洪水注意報) 大雨、長雨、融雪などの現象により河川の水が増し、そのため河川の堤防、ダムに損傷を与えるなどによって災害が起こる恐れがあると予想される場合	(洪水警報) 大雨、長雨、融雪などの現象により河川の水が増し、そのため河川の堤防、ダムに損傷を与えるなどによって重大な災害が起こる恐れがあると予想される場合

年の二十三年にアイオン台風、二十四年のキティー台風と三年連続して台風の被害を受けています。最近では、昭和五十六年の台風15号、五十七年の台風10号、五十八年の台風18号などが大きな被害をもたらしました。

昭和六十一年以降は、雷を伴った集中豪雨で浸水害を被りました。特に平成九年九月の集中豪雨では、一時間の降水量が百を超え、四百軒以上の建物に被害が発生しました。

また、昨年は台風6号と21号が関東地方に上陸。幸いにも本市は直撃を受けませんでした

がけ付近などは 集中豪雨に注意

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことです。

中小河川のはんらんや土砂崩れ、がけ崩れなどで大きな被害が予想されます。がけ付近や造成地などでは気象情報に十分注意して、万全の防災対策を取るようにしましょう。

台風を取り巻く雨雲で長時間の大雨となり石垣の崩壊や冠水などの被害が発生しました。